

## 2019年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年5月10日

上場取引所 東

上場会社名 日精エー・エス・ビー機械株式会社

コード番号 6284 URL <http://www.nisseiasb.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 C00 (氏名) 宮坂 純一

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 赤沼 和也 TEL 0267-23-1560

四半期報告書提出予定日 2019年5月15日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年9月期第2四半期の連結業績 (2018年10月1日～2019年3月31日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第2四半期	12,258	△8.1	1,399	△49.7	1,585	△40.7	1,271	△52.2
2018年9月期第2四半期	13,344	10.2	2,784	30.4	2,672	△1.8	2,658	48.5

(注) 包括利益 2019年9月期第2四半期 1,261百万円 (0.7%) 2018年9月期第2四半期 1,252百万円 (△61.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第2四半期	84.75	ー
2018年9月期第2四半期	177.01	ー

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年9月期第2四半期	43,827	27,500	62.7
2018年9月期	46,499	27,237	58.6

(参考) 自己資本 2019年9月期第2四半期 27,486百万円 2018年9月期 27,231百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期	ー	0.00	ー	60.00	60.00
2019年9月期	ー	0.00			
2019年9月期(予想)			ー	60.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2019年9月期の連結業績予想 (2018年10月1日～2019年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,000	0.6	4,100	△19.9	4,300	△18.6	3,000	△31.0	200.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2019年9月期2Q	15,348,720株	2018年9月期	15,348,720株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2019年9月期2Q	356,951株	2018年9月期	331,923株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2019年9月期2Q	14,999,490株	2018年9月期2Q	15,016,903株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本書に記載した業績予想数値等は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき判断した見通しであり、実際の業績等は、様々な要因により異なる場合があります。業績予想等の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報」「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・当社は、2019年5月30日に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算補足説明資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。
- ・「2019年9月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報)	10
3. 補足情報	11
受注及び販売の状況	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2018年10月1日～2019年3月31日、以下、当第2四半期又は当期間）の世界経済は、長引く米中貿易摩擦や中国の景気減速に加え、英国の欧州連合（EU）離脱問題が懸念材料となり、先行きなど予断を許さない不透明な状況で推移しました。米国経済は財政刺激策の効果が薄れるとともに徐々に減速し、欧州経済はドイツを筆頭に各国の成長ペースが低下しました。新興国では、米中貿易摩擦を主因として中国経済がやや減速したほか、他の新興国も減速傾向が強まりました。一方、我が国経済は、前半は堅調な企業収益や雇用情勢の改善、底堅い設備投資の継続などが見られ、緩やかな回復基調で推移しましたが、後半は世界経済の不透明感の影響からやはり減速に転じつつあります。また、欧州を発端とした廃プラスチック問題に関する議論は依然として活発な状況が続いております。このように、当社を取り巻く経営環境は、顧客需要が一部市場で弱含むなど、やや低調に推移しました。

こうした環境下、当社グループは「人と社会に豊かさを提供する。高い技術、サービスで恒久的な存続を追求する」との経営理念に基づき、中長期的な成長発展方針を継続し、事業規模の拡大を見据えた各種戦略的施策の展開に注力しました。

技術面では、当社が従前より得意とする高品質・高付加価値生産が特徴のワンステップ成形機の優位性を更に高める「ゼロ・クーリングシステム」と命名した新技術の開発実用化を進め、製品競争力を強化しました。これは、ワンステップ成形機の中でも当社の4ステーション方式でしか成し得ない、容器の生産性・物性強度・外観品質・軽量化を同時にかつ飛躍的に向上させる画期的な新技術であります。とりわけ、軽量化についてはプラスチック材料の使用量削減を実現できるため、廃プラスチック問題への対策にも有効な技術であります。

販売面では、全世界の既存・新規マーケットへの「ゼロ・クーリングシステム」周知活動に注力するとともに、新たに開発した大量生産を可能とする新製品を世界各地の展示会に出展し市場浸透を図りました。

生産面では、インド第3工場の立ち上げを完了し、安定稼働を達成しました。国内新工場（千曲川工場）は、新技術及び新型機の研究開発拠点として、またグループ全体の物流拠点として有効活用を開始しました。

廃プラスチック問題に関しましては、当社グループにとって大きなビジネスチャンスと捉えており、対策の中心となる「Reduce＝材料使用量の削減」「Reuse＝使い捨てない容器の成形提案」「Recycle＝あらゆるリサイクル材料の成形」、「生分解性プラスチックへの取組み」という各テーマ全てに、従前より技術的対応を進めております。具体的には、「ゼロ・クーリングシステム」によるプラスチック材料の使用量削減、容器の再利用に必要とされる高耐熱性技術、多種リサイクル材料の使用を可能とする成形技術、素材・樹脂メーカーなどからの要請に基づく生分解性プラスチック利用の共同研究などであります。また、加盟するプラスチック工業連盟の「プラスチック海洋ごみ問題の解決に向けた宣言」の趣旨に賛同し署名しました。今後も、地球環境と共存しながら継続した成長を実現するため、啓蒙活動の推進や、異業種との連携強化により、有益な容器成形の研究開発を継続していきます。

販売成績につきましては、当期間の受注高が12,665百万円（前年同期比86.7%）と、好調であった前年同期を下回りました。これは、「ゼロ・クーリングシステム」の投入により、顧客からの引き合いは活発な状況が続いているものの、外部環境の変化により顧客需要が一部市場で弱含むためであります。同様に、当期間の売上高は、12,258百万円（同91.9%）と前年同期をやや下回りました。なお、当期間末現在の受注残高は、10,487百万円（前年同期末比101.6%）と、前期（2018年9月期）の各四半期末の平均受注残高と同水準を維持しております。

利益面につきましては、売上規模の減少に加え、第1四半期の戦略的先行投資費用の集中計上と大型機生産拠点である国内工場の操業度が低下した結果、売上総利益は5,165百万円（前年同期比80.6%）、営業利益は1,399百万円（同50.3%）とそれぞれ減益となりました。なお、本業での調達・生産・出荷・販売プロセスにおける従来の高収益構造に変化はありません。

当第2四半期連結累計期間における損益の状況は次のとおりであります。

（単位：百万円）

	売上高	売上総利益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
当第2四半期	12,258	5,165	1,399	1,585	1,271
前第2四半期	13,344	6,411	2,784	2,672	2,658
前年同期比	91.9%	80.6%	50.3%	59.3%	47.8%

## 製品別売上高状況

(単位：百万円)

	ストレッチブロー成形機	金型	付属機器	部品その他	合計
当第2四半期	6,224	3,772	772	1,488	12,258
前第2四半期	7,029	3,826	864	1,624	13,344
前年同期比	88.6%	98.6%	89.4%	91.6%	91.9%

製品別の売上高状況につきましては、金型が3,772百万円（前年同期比98.6%）とほぼ横ばいであったのに対し、ストレッチブロー成形機が6,224百万円（同88.6%）、付属機器が772百万円（同89.4%）、部品その他が1,488百万円（同91.6%）とそれぞれ減収となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

## セグメント（地域）別売上高状況

(単位：百万円)

	米州	欧州	南・西アジア	東アジア	日本	合計
当第2四半期	2,792	2,328	4,584	1,075	1,476	12,258
前第2四半期	3,922	3,100	4,438	638	1,245	13,344
前年同期比	71.2%	75.1%	103.3%	168.5%	118.6%	91.9%

## セグメント（地域）別利益

(単位：百万円)

	米州	欧州	南・西アジア	東アジア	日本	合計
当第2四半期	712	746	792	228	468	2,948
前第2四半期	1,128	1,278	947	184	376	3,915
前年同期比	63.1%	58.4%	83.7%	124.1%	124.5%	75.3%

## ① 米州

北米市場は堅調に推移しているものの、中南米市場で前期大幅増収の反動減により、地域全体の売上高は2,792百万円（前年同期比71.2%）と減収となりました。セグメント利益も減収の影響などにより、712百万円（同63.1%）と減益となりました。

## ② 欧州

欧州の景気減速の影響を受けて、地域全体の売上高は2,328百万円（前年同期比75.1%）と減収となりました。セグメント利益も746百万円（同58.4%）と減益となりました。

## ③ 南・西アジア

ドバイの販売法人が増収になったことにより、地域全体の売上高は4,584百万円（前年同期比103.3%）と増収となりました。一方、セグメント利益はインド工場の固定費増加により、792百万円（同83.7%）と減益となりました。

## ④ 東アジア

主要市場の中国などで増収となり、地域全体の売上高は1,075百万円（前年同期比168.5%）と増収となりました。セグメント利益も、増収により228百万円（同124.1%）と増益となりました。

## ⑤ 日本

売上高は1,476百万円（前年同期比118.6%）と増収となりました。セグメント利益も、468百万円（同124.5%）と増益となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

(単位：百万円)

	流動資産	固定資産	流動負債	固定負債	純資産
当第2四半期	28,980	14,846	8,455	7,870	27,500
前連結会計年度	31,180	15,318	11,500	7,761	27,237

当第2四半期連結会計期間末（以下、当期末）の流動資産は、前連結会計年度末（以下、前期末）と比べ2,200百万円減少し、28,980百万円となりました。また、固定資産は、前期末と比べ472百万円減少し、14,846百万円となりました。この結果、当期末の資産合計は、前期末と比べ2,672百万円減少し、43,827百万円となりました。

流動負債は、前期末と比べ3,045百万円減少し、8,455百万円となりました。また、固定負債は、前期末と比べ109百万円増加し、7,870百万円となりました。

純資産は、前期末と比べ263百万円増加し、27,500百万円となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、資金）は、前連結会計年度末に比べ2,127百万円減少し、6,103百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間（以下、当期間）における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 の期末残高
当第2四半期	61	△282	△1,794	6,103
前第2四半期	175	△282	△1,690	6,853

## ① 営業活動によるキャッシュ・フロー

運転資本の増加や、法人税等の支払いなどによる資金の減少があったものの、税金等調整前四半期純利益の計上による資金の増加が上回り、営業活動の結果増加した資金は61百万円（前年同期：175百万円の収入）となりました。

## ② 投資活動によるキャッシュ・フロー

インド第3工場や千曲川工場への設備投資に係る支出があり、投資活動の結果支出した資金は282百万円（前年同期：282百万円の支出）となりました。

## ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

借入金の返済や期末配当金の支払いにより、財務活動の結果支出した資金は1,794百万円（前年同期：1,690百万円の支出）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期（2018年10月1日～2019年9月30日）の連結業績予想につきましては、当第2四半期の経営成績等を踏まえ、2018年11月9日に公表いたしました通期の連結業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日（2019年5月10日）公表いたしました「2019年9月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,163	6,564
受取手形及び売掛金	5,859	6,345
商品及び製品	2,563	2,545
仕掛品	6,513	7,044
原材料及び貯蔵品	5,530	5,487
その他	1,739	1,285
貸倒引当金	△189	△292
流動資産合計	31,180	28,980
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,521	5,488
機械装置及び運搬具(純額)	4,222	4,520
土地	1,165	1,165
その他(純額)	881	498
有形固定資産合計	11,791	11,672
無形固定資産	125	127
投資その他の資産		
投資有価証券	236	196
その他	3,296	2,977
貸倒引当金	△130	△127
投資その他の資産合計	3,402	3,046
固定資産合計	15,318	14,846
資産合計	46,499	43,827

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,162	2,281
短期借入金	2,891	2,019
未払法人税等	782	253
前受金	2,248	2,253
賞与引当金	267	327
役員賞与引当金	15	24
その他	2,133	1,294
流動負債合計	11,500	8,455
固定負債		
長期借入金	6,592	6,670
役員退職慰労引当金	366	377
退職給付に係る負債	627	648
その他	174	173
固定負債合計	7,761	7,870
負債合計	19,262	16,326
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,860	3,860
資本剰余金	3,196	3,196
利益剰余金	22,093	22,463
自己株式	△202	△299
株主資本合計	28,947	29,220
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	71	31
為替換算調整勘定	△1,787	△1,765
その他の包括利益累計額合計	△1,716	△1,733
非支配株主持分	6	14
純資産合計	27,237	27,500
負債純資産合計	46,499	43,827



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
売上高	13,344	12,258
売上原価	6,933	7,093
売上総利益	6,411	5,165
販売費及び一般管理費	3,626	3,765
営業利益	2,784	1,399
営業外収益		
受取利息	67	73
受取配当金	15	3
為替差益	—	31
受取手数料	78	89
その他	9	46
営業外収益合計	170	244
営業外費用		
支払利息	4	16
為替差損	270	—
遊休資産諸費用	—	33
その他	7	8
営業外費用合計	283	58
経常利益	2,672	1,585
特別利益		
固定資産売却益	1	3
投資有価証券売却益	1,189	—
補助金収入	—	116
特別利益合計	1,190	120
特別損失		
固定資産売却損	0	1
特別損失合計	0	1
税金等調整前四半期純利益	3,862	1,704
法人税、住民税及び事業税	1,231	407
法人税等調整額	△28	17
法人税等合計	1,203	424
四半期純利益	2,659	1,279
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	8
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,658	1,271

## (四半期連結包括利益計算書)

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
四半期純利益	2,659	1,279
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△774	△39
為替換算調整勘定	△632	21
その他の包括利益合計	△1,407	△18
四半期包括利益	1,252	1,261
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,251	1,253
非支配株主に係る四半期包括利益	0	7

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,862	1,704
減価償却費	385	697
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	14	109
受取利息及び受取配当金	△82	△76
支払利息	4	16
固定資産売却損益 (△は益)	△1	△2
投資有価証券売却損益 (△は益)	△1,189	—
補助金収入	—	△116
売上債権の増減額 (△は増加)	1,471	△583
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,684	△534
仕入債務の増減額 (△は減少)	190	△724
前受金の増減額 (△は減少)	204	65
その他	△644	369
小計	1,530	924
利息及び配当金の受取額	86	77
利息の支払額	△4	△16
法人税等の支払額	△1,436	△922
営業活動によるキャッシュ・フロー	175	61
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額 (△は増加)	△198	479
有形固定資産の取得による支出	△1,626	△786
有形固定資産の売却による収入	2	13
無形固定資産の取得による支出	△29	△15
投資有価証券の売却による収入	1,567	—
補助金の受取額	—	23
その他	1	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△282	△282
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△138	10
長期借入れによる収入	—	1,100
長期借入金の返済による支出	△647	△1,903
自己株式の取得による支出	△0	△97
配当金の支払額	△899	△898
その他	△4	△4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,690	△1,794
現金及び現金同等物に係る換算差額	△145	△113
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,942	△2,127
現金及び現金同等物の期首残高	8,796	8,230
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,853	6,103

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

前第2四半期連結累計期間(自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	米州	欧州	南・西アジア	東アジア	日本	
売上高						
外部顧客への売上高	3,922	3,100	4,438	638	1,245	13,344
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,922	3,100	4,438	638	1,245	13,344
セグメント利益	1,128	1,278	947	184	376	3,915

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,915
全社費用	△783
たな卸資産の調整額	△130
その他の調整額	△218
四半期連結損益計算書の営業利益	2,784

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	米州	欧州	南・西アジア	東アジア	日本	
売上高						
外部顧客への売上高	2,792	2,328	4,584	1,075	1,476	12,258
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,792	2,328	4,584	1,075	1,476	12,258
セグメント利益	712	746	792	228	468	2,948

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,948
全社費用	△812
たな卸資産の調整額	△159
その他の調整額	△577
四半期連結損益計算書の営業利益	1,399

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 補足情報

受注及び販売の状況

① 受注状況

製品別	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)		前年同期比	
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (%)	受注残高 (%)
ストレッチブロー成形機	7,862	6,113	6,696	6,027	85.2	98.6
金型	4,041	3,445	3,753	3,660	92.9	106.2
付属機器	1,102	699	758	724	68.8	103.5
部品その他	1,603	66	1,457	75	90.9	112.9
合計	14,610	10,326	12,665	10,487	86.7	101.6

② 販売実績

製品別	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)		前年同期比 (%)
	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	
ストレッチブロー成形機	7,029	52.6	6,224	50.8	88.6
金型	3,826	28.7	3,772	30.8	98.6
付属機器	864	6.5	772	6.3	89.4
部品その他	1,624	12.2	1,488	12.1	91.6
合計	13,344	100.0	12,258	100.0	91.9